

1. 地域環境保全基金の残高等

		金額 (単位:円)	備考
①	基金総額 (前年度末基金残高)	217, 115, 981	
	内訳	うち、国費相当額	108, 557, 990
		うち、地方負担相当額	108, 557, 991
		うち、負担附寄附金等	0
②	基金運用益	5, 532	
③	その他収入	0	
④	負担附寄附金等	0	
⑤	返納額	0	
⑥	基金執行額 (処分額)	31, 760, 170	内訳は下表のとおり
⑦	基金残高	185, 361, 343	(=①+②+③+④-⑤-⑥)
	内訳	うち、国費相当額	92, 680, 671
		うち、地方負担相当額	92, 680, 672
		うち、負担附寄附金等	0

2. 保有割合

	次年度の基金類型	取崩型	金額 (単位:円)	備考
⑧	基金残高		185, 361, 343	
⑨	事業費 (次年度から終了年度までの見込額)		185, 361, 343	
⑩	保有割合		100.000%	= (⑧/⑨)

保有割合の算定根拠
 運用型：運用益見込額÷事業費 (次年度見込額)
 取崩型：基金残高÷事業費 (次年度から終了年度までの見込額)

3. 事業一覧

番号	事業名	事業費			備考	達成度	事業費 (次年度)	事業費 (終了まで)
		合計	一般財源等	基金充当額				
1	生物多様性戦略推進事業(1)生態系の場の維持事業	12, 359, 940	4, 859, 940	7, 500, 000		58%	10, 150, 000	24, 705, 493
2	生物多様性戦略推進事業(1)生態系の繋がりの強化事業	411, 400	0	411, 400		58%	150, 000	51, 600, 790
3	環境人財育成事業(1)北九州市環境首都検定	10, 272, 668	634, 337	9, 638, 331	運用益5, 532	53%	9, 773, 532	44, 439, 740
4	環境人財育成事業(1)こども環境学習事業	1, 110, 439	0	1, 110, 439		82%	1, 132, 000	13, 046, 571
5	「総合環境情報誌」の作成	4, 578, 646	778, 646	3, 800, 000		76%		
6	環境先端技術・施策の見える化普及啓発事業	9, 419, 000	119, 000	9, 300, 000		76%	9, 125, 000	51, 568, 749
7		0						
8		0						
9		0						
10		0						
11		0						
12		0						
13		0						
14		0						
15		0						
合 計		38, 152, 093	6, 391, 923	31, 760, 170			30, 330, 532	185, 361, 343

4. 基金事業の目標に対する達成度

成果指標	環境活動に関する市民意識調査結果、こども環境学習教材の活用度、検定受験者数	
成果実績	生物多様性戦略推進事業、環境人財育成事業、「総合環境情報誌」の作成	
目標値	①②市民意識調査結果における「自然環境の保全と自然のふれあいの推進」の項目順位(25位以上)、③環境首都検定受験者数(累計5万人超)、④「みどりのノート」小学校低学年活用状況(80%)、⑤⑥市民意識調査結果における環境活動を常に実行している人の割合(60%以上)	
達成度	①②市民意識調査結果における「自然環境の保全と自然のふれあいの推進」の項目順位(58%)、③環境首都検定受験者数(53%)、④「みどりのノート」小学校低学年活用状況(82%)、⑤⑥市民意識調査結果における環境活動を常に実行している人の割合(76%)	

67.25%

令和4年度 事業報告書

事業名	生物多様性戦略推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 生態系の場の維持（旧：市民と自然のふれあい推進事業）	開始年度	平成27年度
担当部署	北九州市環境局環境監視部環境監視課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】

生物多様性及び豊かな自然がもたらす恵みを持続的に活用した「自然と共生するまち」づくりの推進に不可欠となる、優れた環境人材の育成を図る。

【目標】

エコツアーの開催や冊子を使ったPRを通じて、市民の自然環境に対する関心を高め、自然への理解及び守り育む意識の形成を図る。

【目標値】

平成29年に実施した市民意識調査の結果では、本市が行っている施策や事業34項目の中で、「以前に比べてかなり良くなっている」と思われるものとして、「自然環境の保全と自然のふれあいの推進」は33位、平均スコア（※）は0.029であった。これを踏まえ、「北九州市自然環境保全ネットワークの会」参加団体等が開催する自然環境保全活動等の広報啓発を継続して行い、令和9年度には25位以上、平均スコア0.045以上に高めることを目標とする。

○市民意識調査項目

本市が行っている施策や事業34項目の中で、「以前に比べてかなり良くなっている」と思われるもの（1位～3位を選択）

※平均スコア…1位3点、2位2点、3位1点を合計し、回答者数で割ったもの

2. 概要

環境調査等を実施し、本市の代表的な自然環境拠点である曾根干潟等の自然環境の特徴や現況を把握し、調査結果を活用した自然環境講座（エコツアー）を実施することにより、自然と触れ合う機会を創出・提供し、市民啓発をすすめる。

また、市民・NPO・企業・学識経験者などから構成された、多様な生態系を保全するための「北九州市自然環境ネットワークの会（以下「自然ネット」）」の活動促進、自然レポート2022の作成やエコライフステージへの参加などを実施し、自然環境保全に携わる団体の活動支援や活動紹介を行う。

3. 根拠法令等

北九州市環境基本条例、第2次北九州市生物多様性戦略（2015年度-2024年度）

4. 実施内容等

【事業内容】

- ①本市の代表的な自然環境拠点である響灘ビオトープ等の適切な保全と利活用のための環境調査の実施
 - ・響灘ビオトープ生物等生息状況調査の実施
 - ・曾根干潟環境調査（底質、底生動物）の実施
- ②豊かで多様な自然環境にふれあうことで、市民が自然を守り愛する気持ちを育むことのできる自然環境講座（エコツアー）の開催
 - ・カプトガニ産卵観察ツアー（令和4年7月17日）の開催
- ③行政、自然ネット、NPO・団体、事業者における取組みを紹介する「自然レポート2022」（400部）の作成
 - ・自然講演会及びエコライフステージ2022にて配布
- ④「自然ネット」の活動促進のための業務
 - ・自然講演会（令和4年8月20日）の開催
 - ・「自然ネット」会員向け情報誌の発行（年4回 各200部）
 - ・メールマガジンの運営（年14回）
- ⑤環境シンボルイベント「エコライフステージ2022」（令和4年11月19日～20日）における広報

【事業効果】

市民の自然環境保全、保護意識の浸透・向上、自然環境に精通した人材の育成

令和4年度 事業報告書

事業名	生物多様性戦略推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 生態系の繋がりの強化 (旧：鳥がさえずる緑の回廊創成事業)	開始年度	平成27年度
担当部署	北九州市環境局環境監視部環境監視課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標 (値)

<p>【目的】 生物多様性や豊かな自然がもたらす恵みを持続的に活用した「自然と共生するまち」づくりの推進に不可欠となる、優れた環境人材の育成を図る。</p> <p>【目標】 処分場、工場などの産業用地として隔離されたイメージのある響灘地区を、緑の回廊づくり等による環境整備を通じて、産業と自然が調和した地区として再構築を図るとともに、市民と自然のふれあいの場として整備するもの。</p> <p>【目標値】 平成29年に実施した市民意識調査の結果では、本市が行っている施策や事業34項目の中で、「以前に比べてかなり良くなっている」と思われるものとして、「自然環境の保全と自然のふれあいの推進」は33位、平均スコア(※)は0.029であった。 これを踏まえ、「鳥がさえずる緑の回廊植樹会」等の広報啓発を継続して行い、令和9年度には25位以上、平均スコア0.045以上に高めることを目標とする。</p> <p>○市民意識調査項目 本市が行っている施策や事業34項目の中で、「以前に比べてかなり良くなっている」と思われるもの(1位～3位を選択) ※平均スコア…1位3点、2位2点、3位1点を合計し、回答者数で割ったもの</p>

2. 概要

市民や企業の協力を得て、植栽や育苗を行い、石峰山から響灘安瀬緑地にかけて緑化を行い、緑の回廊を創生する。

3. 根拠法令等

北九州市環境基本条例、第2次北九州市生物多様性戦略(2015年度-2024年度)

4. 実施内容等

<p>【事業内容】 緑の回廊づくり(植栽地管理) ・行政による除草 対象範囲：令和2年度及び令和3年度植栽地において、除草業務委託を実施</p> <p>【事業効果】 市民と自然のふれあいの推進及び響灘から市街地へ向けてのシンボルロードの形成</p>

令和4年度 事業報告書

事業名	環境人財育成事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 北九州市環境首都検定	開始年度	平成27年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部環境学習課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】

環境首都の実現や地球温暖化対策の推進に不可欠となる、優れた環境人財の育成を図る。
市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むために「環境首都検定」を実施。
小学校受検の実施や幅広く広報することで、市民に対する「環境首都検定」の周知と継続した受検者数の拡大を目指す。

【目標値】

平成20年度から13年にわたり実施した「環境首都検定」の受検者数の推移は、過去5年間をみると平成28年度は3,185人、令和3年度は5,502人となっており、約2,300人増加し、徐々に市民に浸透してきている。
今後も継続して市民の環境意識を高め、優れた環境人財の育成する活動として、今後10年間の累計受検者数が5万人（北九州市の人口約94.7万人の約5%）を超えることを目標値とし、単年度受検者数を毎年5%、200人程度増加を図っていく。
令和4年度は、前年度比5%増加の5,777人の受検者数を目標とする。

2. 概要

市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「北九州市環境首都検定」を実施する。

3. 根拠法令等

北九州市環境基本条例

4. 実施内容等

【事業内容】

「北九州市環境基本計画」（平成29年11月改訂）の戦略プロジェクト並びに「北九州市地球温暖化対策実行計画・環境モデル都市行動計画」（平成28年8月策定）の取組の一つで、公式テキストの改定、検定問題・解答冊子作成、受検申込の受付や当日の会場運営、採点等、検定実施の一連業務を行った。

【事業効果】

①北九州市独自の環境分野の検定の実施により、環境意識のレベルアップや、環境に関心を持つ市民の裾野を広げた。
②本市の環境首都への取組における認知度を高めるとともに、エコライフの取組を身近に感じることができきっかけをつくった。

※令和4年度受検者数 5,751人

令和4年度 事業報告書

事業名	環境人財育成事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) こども環境学習事業	開始年度	平成27年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部環境学習課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】

環境首都の実現や地球温暖化対策の推進に不可欠となる、優れた環境人財の育成を図る。
次世代を担う子どもたちがそれぞれの発達段階に応じて環境問題への関心や認識を深めるため、本市の未来を担う子どもたちを対象に、「みどりのノート」の配布・啓発を行う。

【目標値】

平成24年度に全小学校で実施したみどりのノート活用状況調査（131校中99校回答）では、小学校低学年（1・2年生）では58%、高学年（5・6年生）では71%であった。実施教科は低学年では生活科が80%、高学年では社会科47%であった。
この状況を踏まえ、比較的活用状況の低い小学校低学年の活用状況を、令和9年度までに80%とすることを目標値とし、令和4年度は69%を目標とする。

2. 概要

市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことの出来る環境人財を育むため、子どもたちへの環境学習を体系的、計画的に実施する。

3. 根拠法令等

北九州市環境基本条例

4. 事業内容等

事業内容】

今日の環境問題を解決していくには、市民・企業・行政など社会を構成する各主体が環境保全への活動を自ら進んで取り組んでいくことが重要である。とりわけ、次世代を担う子どもたちがそれぞれの発達段階に応じて環境問題への関心や認識を深め、積極的に参加していくことが大切である。

- ①「こどもエコクラブ」だよりを作成・配布し、こどもエコクラブの活動をPRすると共に、加入促進を図った。
（令和5年3月「こどもエコクラブだよりNo.13」発行）
- ②市内小学校へごみ収集車（パッカー車）を利用した出張授業を実施し、環境啓発用グッズを活用して、環境学習の推進を図った。（令和4年度訪問校数：97校）
- ③書き込み式環境教育ワークブック「みどりのノート」（小学校低学年用・高学年用）の小学校等での活用を推進し、子どもたちへの環境学習を体系的、計画的に実施した。（市内全小学校へ配布）

【事業効果】

次世代を担う子どもたちの高い環境意識の醸成

令和4年度 事業報告書

事業名	「総合環境情報誌」の作成	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 「総合環境情報誌」の作成	開始年度	平成27年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部総務課	終了年度	令和4年度

1. 目的及び目標（値）

地球温暖化など地球規模での環境問題の解決には、一人ひとりがライフスタイルを見直し、市民・事業者・行政が一体となって環境保全活動を推進していくことが必要である。このため、環境局が年3回発行している環境情報誌「ていたんプレス」により、本市の環境行政全般について理解しやすいように説明し、市民の環境意識の啓発を行っている。

平成29年度に実施した市民意識調査の結果では、各項目について「毎日の暮らしの中で、どのような環境活動を実行しているか」の問いに対し「常に実行」「時々実行」と回答した人の割合がどちらも50%以下だった。

これを踏まえ、環境情報誌「ていたんプレス」による環境意識の広報啓発を継続して行い、「常に実行」の割合を令和9年度には60%以上に高めることを目標とする。

○市民意識調査項目

- (1) 節電、省エネへの取り組み
「常に実行」43.6%、「時々実行」47.1%
- (2) ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進
「常に実行」46.1%、「時々実行」40.2%

※「ていたんプレス」令和4年度発行部数 1,071,000部（357,000部×3回）

2. 概要

環境に関する情報の提供、環境局の取組、廃棄物行政の報告（ごみレポート）、地球温暖化防止対策など、本市の環境行政全般について分かりやすく紹介し、市民の環境意識の啓発を図る総合環境情報誌「ていたんプレス」を年3回発行し、広く市民へ配布するもの。

なお、当該事業については、本市における事業見直しに伴い令和4年度をもって終了することとなった。

3. 根拠法令等

北九州市環境基本条例

4. 実施内容等

【事業内容】

本市の環境マスコットキャラクターである「ていたん」をナビゲーターとして、市民に環境情報全般をわかりやすく紹介する「ていたんプレス」の発行に関して、企画から配布に至るまでの一連の業務を行った。

- ・発行回数：年3回（令和4年7月、11月、令和5年3月）
- ・配布先：市内全世帯、公共施設、コンビニ等（無償配布）
- ・サイズ：タブロイド版4ページ（カラー）
- ・障害者対応：視覚障害者用に点字版、音声版、テキスト版を作成

【事業効果】

- ①積極的な環境情報の発信を通じて、市民の環境意識の啓発を行った。
- ②環境情報を活用した持続可能なライフスタイルの実践や環境保全への取組、環境政策への参加等を推進した。

令和4年度 事業報告書

事業名	環境先端技術・施策の見える化普及啓発事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 環境先端技術・施策の見える化普及啓発事業	開始年度	平成27年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部環境学習課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

地球温暖化など地球規模での環境問題の解決には、一人ひとりがライフスタイルを見直し、市民・事業者・行政が一体となって環境保全活動を推進していくことが必要である。このため、マスコットキャラクター「ていたん&ブラックていたん」を活用し、ノーマイカーデーなどの地球温暖化対策への取組みやSDGsの実現など、本市の環境先端施策について理解しやすいように説明し、市民の環境意識の啓発を行っている。

令和元年度に実施した市民意識調査の結果では、各項目について「毎日の暮らしの中で、どのような環境活動を実行しているか」の問いに対し「常に実行」「時々実行」と回答した人の割合がどちらも50%以下だった。

これを踏まえ、マスコットキャラクター「ていたん&ブラックていたん」による環境意識の広報啓発を継続して行い、「常に実行」の割合を令和9年度には60%以上に高めることを目標とする。

○市民意識調査項目

- (1) 節電、省エネへの取組み
「常に実行」43.6%、「時々実行」47.1%
- (2) ごみの減量やリサイクルなど3Rの推進
「常に実行」46.1%、「時々実行」40.2%

2. 概要

環境に関する先端技術の提供、環境局の取組み、地球温暖化防止対策など、本市の環境行政全般について分かりやすく紹介し、市民の環境意識の啓発を図るため、環境マスコットキャラクター「ていたん&ブラックていたん」を活用した啓発事業を行うもの。

3. 根拠法令等

北九州市環境基本条例

4. 実施内容等

【事業内容】

本市の環境マスコットキャラクターである「ていたん&ブラックていたん」をナビゲーターとして、ノーマイカーデーなどの地球温暖化対策への取組みやSDGsの実現などの環境先端技術をはじめとする情報全般を、市民にわかりやすくダイレクトに発信した。

- ・環境啓発グッズの作成
- ・訪問先：イベントや市内小学校（環境教育プログラム）（イベント：計43回訪問、市内小学校：6回訪問）

【事業効果】

- ①積極的な環境情報の発信を通じて、市民の環境意識の啓発を行った。
- ②環境情報を活用した持続可能なライフスタイルの実践や環境保全への取組、環境政策への参加等を推進した。